総社市市民提案型事業

講 演 会

身近な医療を考える

西郡地区の絆を推進する会
山手公民館西郡分館、西郡自治会

協賛： アグリ元気岡山　農マル園芸 吉備路農園

総社市市民提案型事業

講 演 会

身近な医療を考える

総合司会
西郡地区の絆を推進する会
副会長　　新谷　修

総社市市民提案型事業

講 演 会
身近な医療を考える

開 会

西郡地区の絆を推進する会
会長　板野 誠

片岡市長からのメッセージ
代読　板野会長

身近な医療を考える　のご盛会を心からお慶び申し上げます
地域の皆様が気になっていることをテーマとした講演は　QOL の向上だけではなく今まで以上に西郡地区の皆様の絆を強めることでしょう
西郡地区の絆を推進する会の今後ますますのご発展とご参集の皆様のご健勝ご多幸をお祈りいたします

平成二十八年九月四日
総社市長　片岡　聡一

QOL
（生活の質）

身近な医療を考える

講演会開催の趣旨について

地元在住のプロフェッショナルの紹介
（西郡版　プロフェッショナル 仕事の流儀）

身近な専門家とともに地域の課題を考える

西郡地区の絆を推進する会（絆塾）
司会　事務局長　　劒持　堅志

講演会　身近な医療を考える

①これからの子育てと介護について
　山手地区福祉委員　　北村 美和子 さん

②妊娠について知っておきたいこと
　岡山医療センター産婦人科 医師　　塚原 紗耶 先生

③もの忘れが気になったとき
　あさのクリニック院長　　浅野 直 先生

報 告

これからの子育てと介護について

山手地区　福祉委員

北村 美和子 さん

報 告

北村 美和子 さん の紹介

北村 美和子 さんは、平成元年7月に西郡地区に転居され、平成18年頃から福祉委員として、現在は西郡福祉委員代表として、西郡地区の福祉の向上に取り組まれています。

本日は、長年の福祉活動で経験した様々な経験や西郡地区の課題について、お話をしていただきます。

講演１

テーマ： 地域で見守る子育て

「妊娠について知っておきたいこと」

岡山医療センター産婦人科 医師
（絆塾幹事）
塚原 紗耶 先生

講演１

塚原 紗耶 先生 の紹介

塚原 紗耶 先生 は、平成16年に札幌医科大学を卒業され、岡山医療センター産婦人科に勤務されています。

日本産科婦人科学会の産婦人科専門医 、更に日本周産期・新生児医学会の周産期専門医（母体・胎児）として、赤ちゃんのために日々頑張っておられます。

※ 周産期とは、妊娠満22週から生後１週未満までの期間で、赤ちゃんにとって最も大切な時期です。

塚原 紗耶 先生 のご主人も
岡大病院で救急科助教として活躍されています。

山陽新聞　子ども新聞　「守り抜く心」

平成 28 年 9 月 2 日(金)

あきらめず全力尽くす

救急科医師

塚原先生から高度救命救急センターを案内してもらい、命を救う現場の重要性を学ぶことができた

【総社市・常盤小6年、馬場敦士】

重症患者を専門的に治療する高度救命救急センター。全国に36施設あり、岡山県内には2病院にある。そのうち岡山大病院（岡山市北区鹿田町）を訪ね、救急科助教の塚原紗耶先生（38）を取材した。

センターは24時間休みなく動いている。救急車で運ばれてくると、応急処置を施し、必要に応じ緊急手術も行う。「命を救うのは時間との勝負。体力も必要だけどやりがいは十分」と教えてくれた。

手術はとても勇気がいるし、自分に自信がないとできない。どんな患者でもあきらめず、全力を尽くす塚原先生は本当にすごいと思う。

僕は幼いころ、ぜんそくで救急外来の先生に何度も助けてもらった。その経験から将来は人の命を救う仕事に就きたいと思っている。8年間取り組んできた空手と水泳をこれからも続け、肉体的にも精神的にも強くなり、夢に向かって頑張っていきたい。

山陽新聞　サンタタイムス

平成28年9月3日（金）

サンタタイムス　2016年(平成28年)9月4日 日曜日　山陽新聞

救命救急センターの医師たちによって、日々多くの命が救われています。岡山市南区瀬戸町福岡の片山瑛太ちゃん（5）もその一人。生後11カ月の時、大やけどを負い、岡山大病院高度救命救急センターに運ばれました。危険な状態が続きましたが奇跡的に助かり、今は元気に保育園に通っています。

事故が起きたのは2012年1月22日午後6時ごろ。風呂上がりの瑛太ちゃんはキッチンにいました。目の前にはコンロからぶら下がるポットプレートの電源コード。そのとき生まれて初めて背伸びをしたことでコードに手が届いてしまい、引っ張った拍子で熱湯とともにカウンターからポットプレートが落ちてきました。

「ギャー！」。泣き叫ぶ瑛太ちゃんの足に気付き母さんが駆け寄ると、両足は見たことがないほど赤に腫れ上がっていたそうです。

「本当にあっという間の出来事で…と振り返るお母さん。上半身のやけどはかろうじて免れましたが、救急車で岡山大病院に運ばれ診察した結果、やけどの深さは最も重い重度。それだけで大変な状態でした。それだけで大変な時は、「元気な姿を見せに行きたいな」。将来の夢は小児科医の卵。「入江呼吸器や血液を入れ替えるための機器などがいくつも使用されていたのを覚えています」と言います。

先生方をまようが中、上方専門的な治療を受けるため2週間後には「ドクターヘリで国立成育医療研究センター（東京）に転院。さらに約10日後に再び岡山大病院へ移り、皮膚移植を受けました。

主治医の塚原紗耶先生は「救命救急医療は1分1秒が勝負。最初は危険な状態でしたが、何とか乗り越えてくれて本当に良かった」と話します。

今も両足にやけどの跡が残る瑛太ちゃんですが、游びや勉強に「全力」。「悪夢」の毎日を送っています。「僕が助かったのも先生たちのおかげ。小学校に入学するときは、元気な姿を見せに行きたいな」。将来の夢は小児科医の卵。「入江呼吸器や血液…

懸命の措置　奇跡的回復

両足に大やけど　片山瑛太ちゃん

【写真上】ドクターヘリで国立成育医療研究センターに運ばれる瑛太ちゃんと主治医の塚原先生（左）ら

【写真右】入院中の瑛太ちゃん。両足の包帯が痛々しい

片山瑛太ちゃん

講演２

テーマ： 高齢化と認知症

「もの忘れが気になったとき」

あさのクリニック院長
浅野 直 先生

講演２

浅野 直 先生 の紹介

浅野 直（ただし）先生は、平成13年に川崎医科大学を卒業され、救命センターの医療、離島の医療などを経験された後、地元総社に戻って来られました。

平成26年4月にあさのクリニックを開設され、高齢者に優しい外来及び訪問診療を行っておられるとともに、地域の重要課題である高齢化と認知症の問題に真摯に取り組まれています。

講師の皆様との懇談
（パネルディスカッション）

地域が直面している子育てや高齢化に伴う介護、医療問題等について、講師の先生方とともに考える良い機会ですので、地域の皆様の積極的な発言や質問を期待しています。

また、自治会、子供会、絆塾等地域団体の役割と期待についても、議論を深めたいと考えています。

講師の皆様との懇談
（パネルディスカッション）

パネラー

塚原 紗耶 先生、浅野 直 先生氏

西郡自治会長 劒持 郁夫、

福祉担当副会長 久保 和子、福祉委員 劒持 武子

子供会 久保 道代、秋山 圭位子

絆塾　会長 板野 誠、事務局長 劒持 堅志

司会　副会長 新谷修